

CLOSE UP 大学

お金の使い方に関する知識を 家庭だけでなく社会にも役立ててほしい

女性のイメージが強い家政学の世界に飛び込んだ古寺先生。悩みながらも自らの道を確認されたその個性は、学生たちからも親しまれる魅力に溢れています。そんな古寺先生をクローズアップしました。

追究すべき学問に定めた 「生活の経済」

私の現在の専門は生活経済学ですが、昔からこの分野に関心があったわけではないんです。

高校時代になりたかった職業は数学の先生。大学も、岐阜大学教育学部を受験しました。受験時に希望する学科を第3希望まで記入できたので、第1希望は数学、第2希望は理科、第3希望は、先の二つ以外の科目には関心がなかったため、何も記さず試験に臨みました。

合格発表当日、結果を大学の掲示板まで見に行くと、残念ながら数学にも理科にも私の受験番号はありませんでした。がっかりして帰ろうとしたとき、なぜか別のところに私の番号を発見。その上を見ると「家庭科」と書かれていました。

当時の家庭科は現在のように男女共修ではなかったこともあり、私の私が家庭科で合格するのはあり得ないと思い、大学側に尋ねました。すると、先生方に「いずれ家庭科は男女共修になります。そうなれば男性の教員は必要になるし、後々有利になる」と諭され、入学しました。しかしその後は、女性のイメージが強いこの分野に男の私が向いているとは思えないままの大学生活。そこで、もう少し考える猶予を得るためにも、大学院に進みました。

この分野でやっていけると思えたのはそれからです。食物や衣服については、日常的に多く扱う女性と比



金城学院大学 生活環境学部 生活環境情報学科 **古寺 浩**教授

大阪市立大学大学院生活科学研究科 生活福祉学専攻後期博士課程退学
専門分野 / 家政学、家政学史、生活経済学
研究課題 / アメリカおよび日本の家政学史 その理念・哲学に関する研究、生涯生活設計における生活経済指標に関する研究、日米の高等教育における消費者教育実践および第三者評価に関する研究

べると、やはり自分としては力不足であると思いました。しかし、生活の経済、つまりお金に関することなら、自分の力を発揮できそうだなと思えたんです。さらに、男であることもこの分野では幸いしました。先生方からは目立った存在だったのか、勉強会にもよく誘われたんです。それによって研究が進み、人脈も広がったことで、今の私があります。

暮らしをより豊かにするために

私の一週間は、平日は研究と講義、週末は学会に出席しなければならないこともあります。趣味のテニスをしています。テニスは30歳を過

ぎてから始めたんですが、約60ペアが参加した初心者レベルのダブルス大会で3位になったこともあります。もっとも、始めた目的は高校時代の友人たち6、7人とゲームを楽しむこと。一人あたりにかかるお金は半日で100円ほど。平日とは一転、体を動かして思いきり汗をかくことが良い気分転換になっています。

今の生活はこんなところですが、老後は「ロングステイ」をするのが夢です。ロングステイとは、海外に比較的長期間滞在することで、例えばタイなら1ヶ月につき十数万円ほどあれば、コンドミニアムで悠々自適に暮らすことができるのではないかと夢見ています。また、「リタイ

アメントビザ」を取得するという方法もあります。これは、55歳以上であることや収入と資産があることなどを証明すれば発行されるビザで、かなり長期にわたる滞在が可能となります。自分の将来の夢としてだけでなく、老後の生活経済という視点から少しずつ研究も進めています。

生活経済学は 仕事にも活かせる学問

ロングステイを考えたり、リタイアメントビザを活用したりすることは、自分の暮らしを豊かにしつつお金を節約できる術と言えますが、これは私が学生に教えていることと大いに関係があります。

かつて私は、金城学院大学で研究生としてすごした時期がありました。それまで研究対象にしていたアメリカの家政学だけでなく、消費者教育も研究対象に取り込み、専門の幅を広げるきっかけになりました。消費者教育のうちの一つである「パーソナルファイナンス」という教育の内容は、生活者自身が一生のうちに稼ぐお金はどれくらいかを早い段階で見極め、収入と支出を自分でコントロール。一生にわたって暮らしのパ



週末はテニスで汗を流す。

ランスを保とうとするもので、この教えが私の扱う専門の一つになったんです。

パーソナルファイナンスに象徴される内容は今、生活環境情報学科の学生に授業の中で教えているだけでなく、ファイナンシャルプランナーの資格取得を勧めることにも繋がっています。家族が一生を通じて幸せに暮らしていくには、お金を抜きしては語れません。限られた資金を効率よく使うために、保険やローン、あるいは年金など、生活に密接にかかわる情報をきちんと知っておくこと

が大切です。学生にはこうした学びの成果を、自分の一生の家計管理はもちろん、銀行や生命保険、証券など様々な業界で、顧客の人生にも役立ててもらいたい。そしてまた、こうした専門性を有していることを、かたちとして示すことができるのがファイナンシャルプランナーの資格だと考えています。

生活経済学といえば、家庭を持った生活者のための学問と捉えられていたのは昔のこと。今は、仕事にも生かすことのできる学問だと言えますね。

古寺先生はこんな人



先生の指導の特徴はとてもマメなところ。関心があるテーマについて研究室に相談しにいくと、パソコンなどを駆使して、細かく指導してくれます。わからないことも、調べ方を丁寧に教えてくださるし、勉強に行き詰まったときでもいろいろとアイデアをいただけるので、次に進むことができます。ですから、卒論を始めたときは、『この先生についていけば、きっと最後までできる』と思いました。くじけそうになったときも一言かけて、何かと助け舟を出してくれます。

授業や勉強から離れた普段は、気軽に話ができる気さくな先生で、奥様の話をよくされる愛妻家でもあります。

古寺先生を囲む4年生のゼミ生の皆さん。